

筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ山行計画（合宿）
 山行名：2006年度冬研合宿「会いに行くよ。ヤックルに乗って。」

山行計画書（合宿）

【山行名】 2006年度冬研合宿「会いに行くよ。ヤックルに乗って」																																			
【日時】 2007.3.17（土）～2006.3.25（日）（前夜発 3泊4日＋予備日3日＋スライド予備日2日）																																			
【目的】 今期冬研山行の集大成 冬の南八ヶ岳から北八ヶ岳への変化を楽しむ																																			
【山城】 八ヶ岳																																			
【使用地形図】 八ヶ岳西部、八ヶ岳東部、蓼科（1：25000）																																			
【参加条件】 2006年度冬山研究班班員及びそのOB・OG																																			
【日程】																																			
前夜 [3.16（金）] つくば（車）美濃戸口																																			
1日目 [3.17（土）] 美濃戸口（3：40）行者小屋																																			
			【行動時間 3：40】																																
2日目 [3.18（日）] 行者小屋（2：30[文三郎道]）赤岳（2：00）行者小屋（1：00）赤岳鉱泉																																			
			【行動時間 5：30】																																
3日目 [3.19（月）] 赤岳鉱泉（2：30）赤岩の頭（0：40）硫黄岳（1：20）オーレン小屋																																			
			【行動時間 4：30】																																
4日目 [3.20（火）] オーレン小屋（0：40）やまびこ荘（2：30）西天狗岳（1：30）黒百合ヒュッテ （2：00）渋の湯																																			
			【行動時間 6：40】																																
5, 6, 7日目 [3.21（水）, 22（木）, 23（金）] 予備日																																			
【現地气象台】 長野地方气象台			026-232-3737																																
【現地交通機関】																																			
小海タクシー（稲子湯）			0267-92-2133																																
アルピコタクシー（美濃戸口）			0266-71-1181																																
中山タクシー（渋の湯）			0266-72-7181																																
【荒天対策】		【食料計画】																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・入山しない ・引き返す ・ビバーク ・停滞 ・山小屋の利用 ・スライド予備日の利用 ・ピストンカット 2日目 赤岳（-4：30） 4日目 西天狗岳（-0：40） ・エスケープルートの利用 ① 赤岳鉱泉（2：40）美濃戸口 ② オーレン小屋（2：30）唐沢鉱泉との林道分岐 		個は個人、団は団体で用意する。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>日目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝</td> <td>個</td> <td>団</td> <td>団</td> <td>団</td> <td>(団)</td> <td>(団)</td> <td>(団)</td> </tr> <tr> <td>昼</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>(個)</td> <td>(個)</td> <td>(個)</td> </tr> <tr> <td>夜</td> <td>団</td> <td>団</td> <td>団</td> <td>(団)</td> <td>(団)</td> <td>(団)</td> <td style="text-align: right;">/</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">* () は予備食を表す</p>		日目	1	2	3	4	5	6	7	朝	個	団	団	団	(団)	(団)	(団)	昼	個	個	個	個	(個)	(個)	(個)	夜	団	団	団	(団)	(団)	(団)	/
日目	1	2	3	4	5	6	7																												
朝	個	団	団	団	(団)	(団)	(団)																												
昼	個	個	個	個	(個)	(個)	(個)																												
夜	団	団	団	(団)	(団)	(団)	/																												
【小屋情報】																																			
小屋	収容人数・テントサイト	電話	備考																																
行者小屋	120人	090-4824-9986	休業中																																
赤岳鉱泉	250人	090-4824-9986	通年営業																																

筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ山行計画（合宿）

山行名：2006年度冬研合宿「会いに行くよ。ヤックルに乗って。」

オーレン小屋	200人 100張り	0266-72-1279	休業中 冬季小屋有り
やまびこ荘		0266-72-3260	休業中
根石山荘	100人	0266-73-6673	休業中
黒百合ヒュッテ	250人	090-2533-0620	通年営業
本沢温泉		090-5446-1205	休業中
夏沢鉱泉		090-4158-4545	通年営業

【団体装備】

- テント一式（本体・外張り・ポール） 団コップフェル一式 ガスヘッド ガスボンベ×2
 ガソリンストーブ ホワイトガソリン×20 団マット 天気図用紙 ラジオ 無線機
 スコップ×2 スノーソー ゾンデ×2 ビーコン×2 竹ペグ適宜 たわし 灯油ポンプ
 お茶パック適宜 赤布適宜

【個人装備】

- ザック ヤッケ or 雨具 シュラフ シュラフカバー マット 登山靴
 ナイフ レーション 軍手 ポリタンク2L ライター コンパス 地形図 食器 非常食
 非常用パック 医療用パック 保険証 防寒着×2 帽子 ビニール袋 トイレットペーパー
 新聞紙 ヘッドランプ 時計 細引き（3mm×10m, 6mm×10m） 着替え お金 学生証
 携帯電話 米 合 タオル 手袋×2 オーバークロブ スパッツ サングラス ゴーグル
 日焼け止め 雑巾 ピッケル アイゼン ワカン 目出帽 スリング（120cm）×2
 替えバンド3種（ワカン、アイゼン、スパッツ） カラビナ×2 環つきカラビナ×2
 計画書

筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ

山行報告書（合宿）

【山行名】2006年度冬研合宿「会いに行くよ。ヤックルに乗って」
【日時】2007.3.17（土）～2007.3.25（日）（前夜発 3泊4日＋予備日3日＋スライド予備日2日）
【目的】今期冬研山行の集大成 冬の南八ヶ岳から北八ヶ岳への変化を楽しむ

メンバー C.L. 大石 原田

〈前夜 3.16（金）〉

土日は冬型の気圧配置で、寒気が日本に入り込むため、山の上は荒れ模様という予報だったが、長野地方気象台に問い合わせたところ、その後の月、火曜日にも新たな寒気が入ってくるのでいつ天気が安定するかわからない、とのことであった。そこで待つて悪いよりはもう入ってしまおう、ということで入山することに。

！山梨地方気象台は、山の天気を教えてくれない。

山の天気は長野地方気象台に電話しよう。

→長野地方気象台 026-232-2738（総務課）

20:30 筑波発 原田車にて。

アプローチのルート 谷田部I.C(常磐道)→首都高速→中央道→諏訪南I.C(中央道)→国道20号線→地方道

2:00 美濃戸口・八ヶ岳山荘着 セブンイレブンの店員に道を聞いたらぜんぜん違う方向の道を教えられ、一時間迷った。

〈一日目 3.17(土)〉

4:30 起床。天気はうす曇。

6:10 出発。はじめはあまり雪がない。美濃戸山荘までは、4WDの車なら入れるようだ。行者小屋まではトレースをたよりに何の問題もなくたどり着く。

9:30 行者小屋 テントを張って（外張りは持っていく）、いらぬものを置いて赤岳に今日昇ってしまうことにした。なぜなら、行者小屋に着いた途端に太陽が顔を出したからだ！

10:00 出発。文三郎道をいく。行者小屋を出発してすぐはかなり急なのぼりとなる。鎖場が現れるが、鎖は完全に雪の中に埋まっている。アイゼンをしっかり食い込ませて身長煮のぼる。急斜面をだいぶ行くと、やっと稜線へ出る。快晴。風も弱い。

赤岳直下の登りにいよいよ入る。かなり怖い。急な勾配のトラバースと、急斜面ののぼりが続く。岩場のミックスになっているところもある。最後は鎖のある岩場を使わずに、右の雪の斜面を慎重に登る。今期の冬研の歩行技術の総まとめという感じで、なかなか達成感が合った。そんな山頂からの眺めは格別。晴れたせいか、かなり人がいて熊本大学の

探検部の人たちと交流。

11:55 赤岳山頂

12:50 出発。

熊本大学の人たちと共に行く。くだりはかなり怖いと予想していたのだが、山頂にいる間にたくさんの人が通ったため、ステップがかなり残されていたのでじっさいはすいすいといった。ただし、風があったり、人の通ったあとがなかったり、雪の状態が悪く、アイゼンがきかなかったりすればかなりの難所となるだろう。

！ヘルメットは持っていくべき。

13:50 行者小屋

小屋に帰って外張りを張る。かなり余裕のある時間。甘酒を飲んで、ゆっくりした。

夜。原田が寝言で「そうか！わかったぞ！！」と叫んだ。

〈二日目 3.18(日)〉

4:30 起床。晴れ。

なんとポリタンの水が凍っている……。二人のシュラフの間に挟んで寝たのだが、V4に二人だったので寝ている間にポリタンが外気にさらされていたらしい。行動時間的には余裕があるので、ガスヘッド火で溶かしてから行動を開始した。

7:00 出発。

7:35 赤岳鉱泉着。カモシカを見た。でかい。そしておいしそうと感じてしまった。

熊本大学の探検部と再開。彼らも硫黄岳に向かうようだ。

10:00 硫黄岳。晴れているし風も弱いので、目出帽もやつけも脱いで稜線に出ると、以外に風が強く、冷たい。すぐにまたとりだして着用する羽目になった。

硫黄岳の山頂は相変わらず広い。展望はすばらしく、権現岳、赤岳、横岳が一望できる。そして反対を見れば、天狗岳をはじめとする北八ヶ岳が姿を見せる。明日たどるルートもばっちり見えた。

10:20 出発。

夏沢ヒュッテを経由してオーレン小屋に向かう。迷いやすいという話だったが、トレースがばっちり付いていて安心。オーレン小屋への分岐は夏沢ヒュッテを少し過ぎたところにある。

11:20 オーレン小屋。

ドアが雪で埋まっていた。しかし反対側の窓から入れる。とりあえず荷物を中に入れて、やることもないのでドアを掘り出すことに。原田、がんばる。むやみに階段まで作っていた。すばらしい。

小屋はきれいですばらしい。張り紙の文章に圧倒される。小屋に書き込みノートがあり、

早速読んでみると、2年前の先輩の書き込みが残っていた。もちろん僕も書き込むことに。小屋に泊まったらオーレン小屋の主人に降りてから電話すること。ルート of 状況、小屋の状況などを伝える。オーレン小屋 0266-72-1279

それでも時間が余っていたので小屋近くの斜面で大滑走（スコップなどで）。楽しかった。小屋でゆっくりと休んで最終日へ向けて体力を回復する。

〈最終日・3日目 3/19(月)〉

4:30 起床。昨日の反省を活かし、シュラフの中にポリタンを入れておいて正解。当たり前か？朝はパスタと残り汁でトマトのスープ。とココア。満足した。快晴。

二人で礼をして小屋を後にする。

6:00 出発。

ヒュッテ夏沢を越えて緩やかなのぼりを越えると、根石岳が見えてくる。硫黄ほどではないが、広い。樹林帯を抜ける前に目出帽をかぶった。同じ間違いは、犯さない。

樹林帯を抜けてからは意外に山頂にすぐについてしまう。

一度少しだけ高度を下げて登り返せば、天狗岳は目の前だ。

天狗岳に東側に雪庇が出ていたが、そこまで発達はしていなかった。天狗岳の頂上からは、南八ヶ岳、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、富士山が一望できた。冬の澄んだ空気だからこそその景色であろう。

8:00 西天狗岳

9:00 黒百合ヒュッテ

10:15 渋の湯

反省会

原田

- ・怪我が無くてよかった。
- ・ 赤岳や硫黄岳のくだりて注意して歩いてよかった。硫黄岳のくだりては凍っていてアイゼン・ピッケルがきかない所があつて怖かつた。アイゼンを研ぐこと of 大切さが分かつた。
- ・ 地形図などを先に見ておくこと of 大切さを痛感した。

大石

- ・ 燃料 of 計算は考えなおさなくてはならない。
- ・ 軽量化 of 大切さを体感した。リー会員の安心を得るために30mロープなどを持っていこうとしていたが、もつていっていたら逆に危険なことになつていたと思う。
- ・ 余裕のある日程だつた。もつとリー会でもそれを強く主張すべきだつたかもしれない。
- ・ 今年 of 冬山研究班どうなることかと思つたが、最後までできてよかった。